第９０号
令和7年8月21日
編集責任者　鈴木　祥弘

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

【移動執行委員会 特集号】

農水省との意見交換会

6月10日～12日にかけて移動執行委員会が行われました。
東京へ行き衆議院会館にて農水省との意見交換会を開催し、また、ご多忙の中、川原田英世氏にも我々の意見交換に参加して頂きました。経営所得安定対策について畑作物の直接支払交付金についてなど、我々農業者として現在感じている事、そしてこれかも不安定な農業の経営状況の実態を改めて知って頂き、限られた時間の中ではありましたが前向きな回答も得られ貴重な意見交換ができたのかと思います。

今後もこのような意見交換を開催し、農業が安定の方向へ向かい、我々農業者が充実した日々を迎えられるよう訴えかけ、意見交換を実施できればと思います。

谷本和樹

立憲民主党との農業政策の意見交換会

6月11日に衆議院会館にて立憲民主党との農業政策の意見交換会が開催されました。

清里町農民連盟17名、清里町農協1名、農協青年部1名、ホクレン中斜里原料所1名の総勢20名での出席でした。

立憲民主党からは徳永エリ参議院議員、川原田英世衆議院議員、篠田奈保子衆議院議員、田名部匡代参議院議員と4名の議員の方々にご参加いただきました。

意見交換内容としては、食料確保・農地維持支払制度『1,農地維持支払』『2,中山間地域、多面的機能・環境加算』『3,自給率向上直接支払』について行いました。

私が率直に関心を引いた話は、農地維持支援に関する話でした。
この制度は、2025年4月に立憲民主党から提案された政策案で農地を農地として維持している農家に対し、現在の戸別所得補償のほかに畑には10aあたり15.000円が支払われ、農業の継続を促すとともに、荒廃の防止につながる取り組みです。徳永議員曰く『北海道にお金が行き過ぎるのでは？という意見は出るが北海道は農業のプロ中プロ、そのプロを守らなくてはいけない』と力強く言っていただきました。
「農業をやってみたい」という人材の掘り起こし、この議題では東京農大が運営する東京農大稲花小学校が2019年に23区内で59年ぶりに新設私立小学校が開校されたと知り、私が思っている以上に食育、農業体験への関心の高さを知りました。
今回の貴重な経験をこれからに活かしていきたいです。

田中彬浩






道選出国会議員要請、消費者へのPR活動

北海道選出の国会議員へ要請書を手渡してきました。その後、北海道産てんさい糖のPR活動としてパンフレットと砂糖を街頭で配布する予定でしたが、悪天候のため翌日の配布となりました。

朝の通勤時間に行ったため受け取ってもらえるか心配でしたが、400組を1時間ほどで配ることができました。受け取ってくれた方の反応も好感触で、SNSへの投稿もありインターネットなどを活用した情報発信も重要だと思いました。また、どこで購入できるのかとの質問もあり、関心を持ってもらうことができたと思います。




清里町農民連盟　移動執行委員会　参加報告
令和7年6月10日～12日　　青年部理事　　橋立　真輝

この度は、令和7年6月10日から12日にかけて実施された清里町農民連盟主催の「移動執行委員会」に参加させていただき誠にありがとうございました。
本委員会に参加した所感を下記の通り報告させて頂きます。

6月10日から12日にかけて東京にて実施された移動執行員会に、青年部として活動に参加いたしました。
1日目には参議院会館会議室にて農水省との意見交換が行われました。議題には①畑作物の直接支払い交付金について。②畑作物産地生産体制確立、強化緊急対策事業など補助事業について。③種子馬鈴薯の復活ルール創設について。以上の3点があげられ、清里町の現状を報告するとともに、北海道の畑作地帯の実情に即した事業となるよう改善を訴えました。特に③では、復活ルール創設について「検討が行われる」との返答をいただき、今後の成果につながる期待を抱くことが出来ました。
2日目には立憲民主党の徳永エリ議員、河原田英世議員、篠田奈保子議員と、農業政策に関する意見交換が行われました。桑島委員長より「新規就農」に関する課題が提起され、私からもそれに付随した意見として「地方に新規就農者を増やすためにはどういった政策が必要なのか」といった旨の意見を述べさせて頂くことができましたし、参加者間で活発な議論が交わされ、有意義な時間となりました。
最終日は消費者へのPR活動として、東京駅前にて甜菜糖の配布が行われました。朝の通勤時間帯での実施となりましたが、多くの方に快く受け取っていただき、「甜菜糖を使っています！」とお声がけ頂く場面もありました。準備した400セットは短時間で配布完了し、甜菜糖の認知度が高まっていることを実感しました。

今回の活動を通じて、地域の実情を理解いただくことの重要性や、消費者との距離を縮める取り組みの意義を再認識することができました。また、農民連盟の継続的な活動が、今後の制度や政策に反映される可能性を感じられたことは、これから営農を続けるに当たり大きな励みとなりました。このような貴重な場にお招きいただき心より感謝申し上げます。







編集後記

連日の猛暑の中、小麦の収穫作業お疲れさまでした。馬鈴薯の収穫期に入ってきました。機械作業も増えてくるので、事故や怪我には気を付けて作業を行っていただければと思います。

鈴木